



## 明治150年 米の流通に関するアーカイブ

公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリー

生産

- 【資料名】** 田こがら(宮崎県在来犁)  
**【年代・来歴】** 昭和30年から35年ころまで宮崎県で使用されていた水田用犁  
**【寸法】** 犁身長 190cm  
**【保存状態】** 概ね良好

【画像】



### 【略説明】

宮崎県西臼杵郡高千穂町並びに五ヶ瀬町などの阿蘇外輪山地方で、昭和30年から35年ころまで使われていた。犁先、犁床、犁身が一体の構造をなしている。水田用の田こがらとは別に、畑用の「畑こがら」もある。

### 【注記】

東京農工大学農学部は、明治期初期から昭和30年代までの間に使われたさまざまな形式の畜力農機具100点あまりを収蔵しており、その資料群は産業考古学会選定「日本の産業遺産300選」に選定されている。

なお上記の年代・来歴及び略説明については、東京農工大学名誉教授 下田博之博士の著書「図説 畜力農機具発達史 (1995年6月)」を基にしている。

- 【所蔵機関】** 東京農工大学農学部  
**【住所】** 東京都府中市幸町3-5-8  
**【連絡先電話番号】** 042-367-5654(農学部総務室)  
**【所蔵URL】** <http://www.tuat.ac.jp/>  
**【閲覧】** 要相談